

6 男女間の暴力を防止するために必要なこと

男女間における暴力を防止するために必要だと考えることを聞いたところ（図 6-1）、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が 68.4%、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が 67.1%と、7 割近くあげられ、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」（58.9%）、「加害者への罰則を強化する」（56.9%）、「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる」（48.7%）、「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」（45.6%）、「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」（41.0%）、などとなっている。

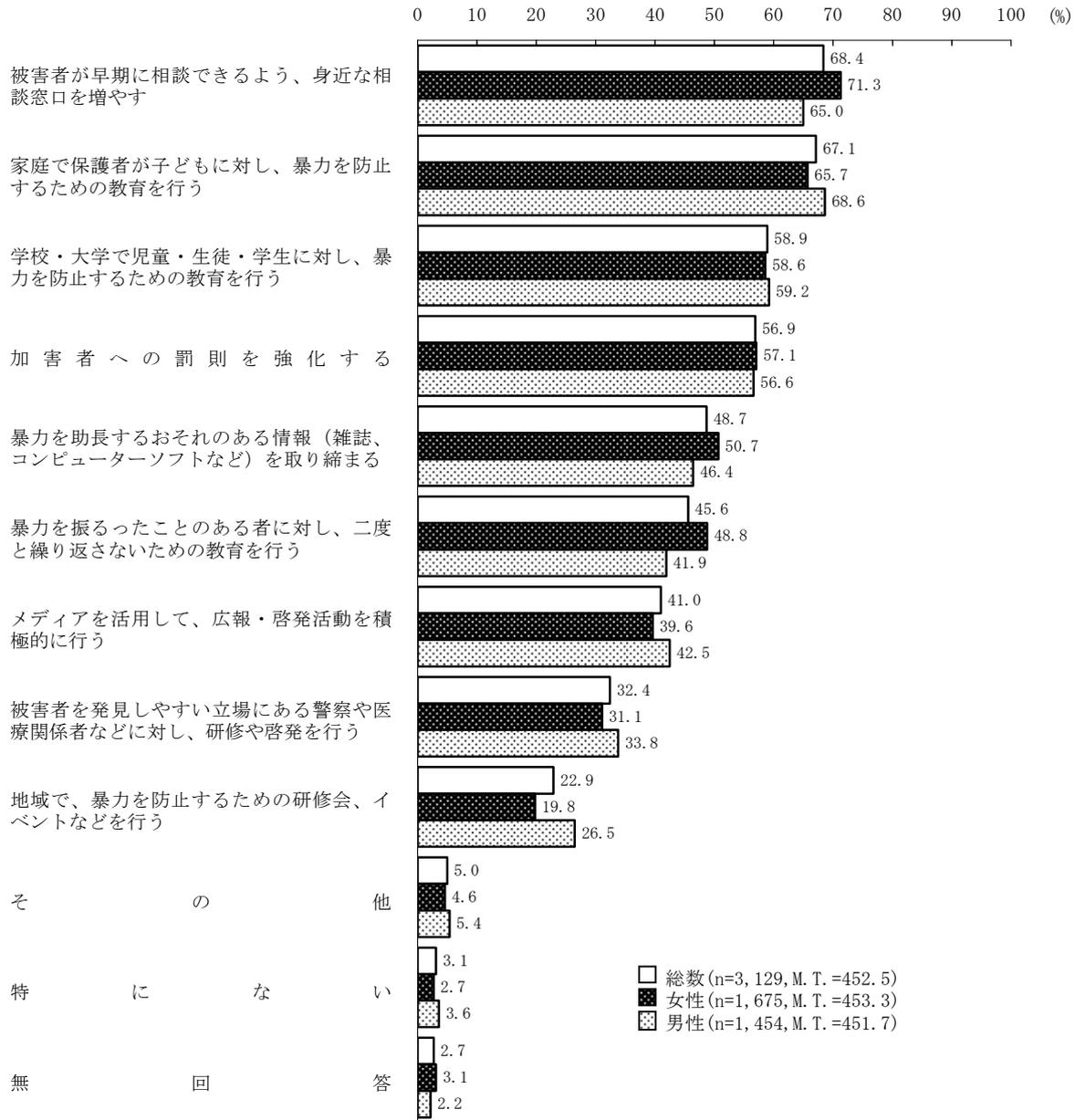
男女別にみると（図 6-1）、大きな差はないが、男性より女性に多いものをポイント数の差の多い順にあげると、「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」（女性 48.8%、男性 41.9%）、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（同 71.3%、65.0%）、「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」（同 50.7%、46.4%）となっている。

【すべての方にお聞きします。】

問 32 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図 6-1 男女間における暴力を防止するために必要なこと



性・年齢別にみると（図 6-2）、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」は女性の 20 代（78.8%）、50 代（76.5%）で他の性・年齢層より多くあげられている。また、「加害者への罰則を強化する」、「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う」は男女とも若年齢層ほど多くあげられる傾向にある。

一方、「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」は、男女とも年齢が高くなるほど多くあげられる傾向がある。

図 6-2 男女間における暴力を防止するために必要なこと（性・年齢別）

